

1 2 月 2 4 日 (第 3 日)

12月24日(木)第3日 午前10時00分開議

出席議員

1番	長坂実子	2番	角増正裕
3番	重長英司	4番	岡野数正
5番	熊倉正造	6番	平川博之
7番	酒永光志	8番	上本一男
9番	花野伸二	10番	沖元大洋
11番	上松英邦	12番	山本秀男
13番	胡子雅信	14番	林久光
15番	登地靖徳	16番	浜西金満
17番	山本一也	18番	吉野伸康

欠席議員

なし

本会議に説明のため出席した者の職氏名

市長	明岳周作	副市長	土手三生
教育長	小野藤訓	総務部長	山本修司
企画部長	奥田修三	危機管理監	江郷壺行
市民生活部長	山井法男	福祉保健部長	仁城靖雄
産業部長	泊野秀三	土木建築部長	廣中伸孝
消防長	丸石正男	企業局長	木下隆
教育次長	小栗賢		

本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	矢野圭一
議会事務局次長	奥迫理香

議事日程

日程第1	一般質問
日程第2	発議第9号 全ての医療機関への緊急財政措置を求める意見書(案)の提出について
日程第3	発議第10号 子供の医療費助成制度の拡充を求める意見書(案)の提出について

開会（開議） 午前10時00分

○議長（吉野伸康君） 皆さん、改めましておはようございます。

議員の皆さん、また、執行部の皆さん、令和2年の江田島市議会も本日で終了の予定でございます。本日も御協力よろしくお願いいたします。

ただいまから、令和2年第8回江田島市議会定例会3日目を開きます。

ただいまの出席議員数は18名であります。

直ちに、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（吉野伸康君） 日程第1、一般質問を昨日に引き続き行います。

一般質問の順番は、通告書の順に行います。

13番 胡子雅信議員。

○13番（胡子雅信君） 皆さん、おはようございます。13番議員、立風会の胡子雅信でございます。

通告に従いまして、1項目、5点の質問をさせていただきます。

第2次総合計画で総観光客数100万人を目標に設定し、観光振興計画では、観光客数、観光消費額の増加を目的として、本市の目指す将来像を設定し、その実現のための基本方針と具体的施策について示しております。市長は、2期目に重視する施策として、観光振興を挙げられております。

次の5点についてお伺いいたします。

1点目、市長の目指す観光戦略について。

2点目としまして、新ホテル及び指定管理施設（宿泊施設）への支援について。

3点目としまして、岸根における開発可能性について。

4点目としまして、地域振興施設整備について。

5点目として、観光協会の在り方と支援策について。

以上、1項目、5点について答弁をお願いいたします。

○議長（吉野伸康君） 答弁を許します。

明岳市長。

○市長（明岳周作君） 皆さん、おはようございます。本日もどうぞよろしく願いいたします。

胡子議員から5点の御質問をいただきました。順にお答えをさせていただきます。

初めに、1点目の「市長の目指す観光戦略について」でございます。

私の目指す観光戦略につきましては、江田島市観光振興計画で基本理念としております、「本市への来訪のきっかけをつくり、観光を「産業」として育成すること」でございます。これにより、新たな雇用を生み、江田島ファンや観光の担い手をふやすことを一体的な観光推進体制として進めてまいります。

その進め方といたしましては、施策体系を「一体的な観光推進体制づくり」「来訪のきっかけづくり」「観光関連産業づくり」そして、「担い手・縁づくり」に分類し、この4つの施策体系により観光振興のエンジンを回転させることで、交流人口100万人を目指すものであります。

次に、2点目の「新ホテル及び指定管理施設への支援について」でございます。

来年7月に開業予定の新ホテル、江田島荘は、江田島市観光振興計画の重点項目として掲げております。「観光拠点の整備」の魅力的な宿泊・温泉施設整備プロジェクトとして位置づけ、取り組んでまいりました。

また、サンビーチおきみ、(Uminos)は、「海と島の観光・交流ゾーン」における観光・交流拠点として位置づけております。

宿泊者の増加は、総観光客数及び観光消費額の増加にもつながってまいります。来訪者を宿泊につなげるため、まずは来訪のきっかけづくりとして、観光戦略チーム「一步」の取り組みの中で、テレビなどのローカルメディアを活用した情報発信のほか、カキ殻の釉薬などを使った江田島焼き体験や、シーカヤック体験など、本市ならではの体験プログラムを充実させているところでございます。

今後も「一步」による取り組みのほか、体験型修学旅行における地域おこし協力隊によるシュノーケリング体験など、体験プログラムの造成やプログラム提供体制の整備などを進めてまいります。

さらに、新ホテル江田島荘、サンビーチおきみ(Uminos)を訪れていただくきっかけをつくり、事業者との連携を図りながら、体験と宿泊を合わせたプログラムづくりや情報発信により、来訪者・宿泊者の増加に寄与できるように支援をしてまいります。

次に、3点目の「岸根における開発可能性について」でございます。

岸根の岬一帯の開発につきましては、平成30年度に開発可能性調査の受託事業者を選定し、昨年、令和元年7月に調査結果の報告を受けております。調査結果の内容につきましては、令和元年11月26日開催の市議会全員協議会で申し上げたとおり、岸根の岬に世界水準の高級かつ個性的な宿泊施設、いわゆるSLHを建設し、周辺環境のすばらしさを国の内外にプロモーションすることで、江田島市のブランドイメージを高めようとするものでございました。

他方、持続的な収益性は確保できるものの、施設と周辺環境の整備に約12億円を試算しており、そのうち市の負担として6億円相当の支援を求めるものでございました。このため、国・県からの各種支援制度を模索したものの、財源の確保には至らず、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現時点では、事業化のめどは立っていないのが現状であります。

このたびの開発可能性調査により、岸根の魅力と可能性を確認することができましたので、今後、民間事業者から自主財源による事業提案がございましたら、積極的に協力してまいります。

次に、4点目の「地域振興施設について」でございます。

私が目指す地域振興施設とは、本市の新鮮で実り豊かな農水産物や加工品などの販売促進、魅力発信、そして、交流の場となる施設であります。

この事業は、呉農業協同組合と江田島市漁業振興協議会、江田島市商工会、江田島市観光協会などで構成する江田島市6次産業化・地産地消推進協議会のメンバーの皆様の御協力のもと、整備を進めてまいります。

江田島市版の地域振興施設は、財政的な面を考慮して、当初から大規模な施設にするのではなく、小さく産んで大きく育てたいと考えております。この施設は、農業・水産業に携わる方や、6次産業化として市内の観光・体験に取り組む方とのかかわりによって徐々に大きな施設へと発展し、しごとの場の創出や健康寿命の延伸にもつながっていくことを期待いたしております。

最後に、「観光協会の在り方と支援策について」でございます。

観光協会につきましては、観光戦略チーム「一歩」の観光振興の推進役、市内観光関連事業者等との連携及び観光客への情報発信などを担う任意団体となっております。

なお、将来的には、観光振興・交流促進のため、稼ぐ力を引き出す経営力を磨き、江田島市の強みを生かした企画・営業・プロモーションを行うことができるよう一般社団法人化を目指しております。

本市としましては、観光協会の一般社団法人化に向けて、引き続き、積極的に支援をしてまいります。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） 観光振興につきまして、5点の答弁をいただきました。一つ一つ再質問をさせていただきたいと思っております。

まず、1点目の「市長の目指す観光戦略について」でございますが、御答弁によりますと、江田島市観光振興計画の4つの施策体系によって、観光を産業として育成することで仕事の間をつくり、また、総合計画にある総観光客数100万人を目指し、そして、観光消費額の増加による経済効果を上げると。そのためには、江田島市観光振興計画を着実に実行していくということと理解させていただきました。

次に移らせてもらいます。

「新ホテル及び指定管理施設への支援について」でございます。

まずは、新ホテルの支援についてお伺いさせていただきます。

令和2年12月2日現在の市が作成した新ホテル周辺関連事業費一覧では、令和3年度に予定されております旧能美海上ロッジ解体工事2億5,070万7,000円、あとは、周辺整備事業で200万円を含めて9億1,373万3,000円ということでお示しいただいております。

一方、温泉源に係る温泉井戸及び揚湯、お湯を上げるポンプですね、こちらが江田島市が所有、管理しております、こちらのそういったお湯を上げる管の洗浄であるとか、ポンプの定期交換であるとか修繕というのは江田島市が実施するということになっております。事業者に対しては、宿泊施設の営業開始から20年間は事業を継続するということが契約を結ばれておりますが、新ホテルが令和3年7月に開業することとなっておりますけれども、市が20年間に負担する温泉に係る維持管理費は幾らになるのか教えてください。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 20年間で負担する温泉に係る維持管理費の御質問でございます。

一つ一つ挙げてまいります。維持管理業務が年間68万円かかっておりますので、これが20年間で1,360万円。それから揚湯ポンプは3年ごとの交換を要しますので、これが7回ありまして3,850万円。そして、温泉井戸のしゅんせつもしなければなりません。これが1回は2,860万として2回で5,720万円。その他の経費で670万円を計上いたしまして、今の数字を合計しますと、20年間で1億1,600万円というふうな試算となっております。

以上です。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。あと、そのほかに市の支援策としては、企業立地奨励条例の対象になるということでございますが、今年の3月12日に事業者の説明で、計画変更のプランを議会にも示していただきました。宿泊棟が4階、温泉棟、延べ床面積3,562.69平米ということで、施工費が約税別で18億ということでした。

今、現時点で、市が試算する奨励金。これは、一つには企業立地奨励金でありまして、新增設した施設に係る固定資産税相当額を5年間100%免除する。限度額なしでございます。また、新規雇用奨励金、これがありまして、1人当たり50万円、限度額2,500万円の1回ということでございますが、今、現時点で市が試算する奨励金の総額はどの程度であるのか教えていただきたいと思っております。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 企業立地奨励金で、先ほど議員のほうから御説明ありましたように、固定資産税の5年分を免除するというようなことなんですけれども、これ、建築施工費を18億円と見込んで、その1.4%と単純に考えましたら年間が2,520万円ということになります。これが5年間ですから1億2,600万円ということなんですけれども、これ過疎法の適用を受けたりすると3年免除とか、そういったこともありますので、あくまでも仮の数字ということで御理解ください。

そして、新規雇用奨励金につきましては、正規職員を1人雇ったら50万ということでございます。今、私どものほうで聞いておりますのが、15人程度正規職員を雇って、ほかにはパートの方も含めて50人ということを知っているんですけれども、正規職員の人件費だけ50万円ですので、50万円掛けることの15人分で750万円ということで、先ほどの1億2,600万と合わせますと1億3,350万円というような計算になります。

以上です。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

それでは、もう1つの宿泊施設である指定管理施設についてちょっとお伺いしたいと思うんですけれども、指定管理施設は、旧サンビーチおきみでございますが、令和元年7

月にリニューアルオープンされております。現行の指定管理期間は令和4年の3月末ということで、つまり、令和3年度までということになっております。江田島市としては、今後この施設をどのような位置づけとして、また、今後も宿泊施設として期待しているのか、この点について教えていただきたいと思っております。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 令和元年7月からのオープンに向けて、サンビーチおきみにつきましては、利用者に気持ちよく宿泊していただくために、市のほうでも内装や機械設備などの改修も行いました。

サンビーチおきみは、観光交流拠点及び海と島の観光交流ゾーン内に位置づけております。宿泊者を呼び込む施設となっておりますので、当然、期間中は情報発信等の連携をとりながら、宿泊者の増加に努めてまいりたいと思っております。

ただ、財政事情もありまして、令和4年3月で一旦は指定期間が切れるわけなんですけれども、次に指定管理を結ぶときには、もう一度総合的な意味で指定管理料は、額がどうなのかとか、期間はどうかとかいったことも含めて、慎重な協議を進めてまいりたいと、そのように思っております。もちろん大事な施設だということは変わりありません。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

それで、ちょっと1つ教えてもらいたいですけども、コロナ以前には宮島を訪れるインバウンド観光客数は、右肩上がりということでございました。また、400万人を超える宮島への観光客がありまして、その一部を誘致することは、江田島市の観光戦略に入っていると思うんですけども、それは、私の認識でよろしいでしょうか。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） インバウンドに限らず、宮島、広島を訪れる方いかに江田島を訪れてもらうか、そこは大事なことだと思っておりますので、議員のおっしゃるとおりだというふうに思っております。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

今、これは、広島経済レポートという雑誌に、ひろしまサンドボックスで、せとうちマリンプロムナード事業の実証実験というのがやるということを知っておりました。これ江田島市を拠点に、プレジャーボートを所有する個人や企業と利用希望者をマッチングし、海上タクシーの予約配船システムなどを検証するというので、今年の年末にやるというふうな記事を見ておりますが、定期航路のない宮島－江田島間の往来をふやすため、海上交通タクシーの構築はすごく面白いなと思っておりますが、市はこのことについて何らか情報の収集というのは行っていらっしゃるのでしょうか。

○議長（吉野伸康君） 奥田企画部長。

○企画部長（奥田修三君） 議員御質問のありましたひろしまサンドボックスの実証実験事業については、確認をしております。この実証実験につきましては、システム開発会社、株式会社ページシステムが、ひろしまサンドボックスのモデル事業として、

海上交通を担うプレジャーボート所有者と陸上交通を担うタクシー事業者をスマホアプリを通じて一括予約することで、栈橋から島内の移動を一元管理する仕組みを開発するものでございます。

このシステムは、AIや衛星データを活用することで、事故の多い瀬戸内海を安全に航行できるシステムをつくり、海上タクシーに応用するものとなっております。

本市での実証実験では、御指摘のあったとおり、今年度内始めるというふうには伺ってたんですが、コロナの影響もありまして、ちょっと延びているというふうには伺っております。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

今後ともこれ面白い企画、実証実験ということですので、アンテナを張って情報収集をいただければと思います。

というのが、今、旧サンビーチおきみですね、今Uminosになっておりますが、江田島市の西海岸に位置して、とても夕日がきれいであると。宮島とも目と鼻の先という立地条件があり、先ほども質問しましたけども、宮島への観光客をどういうふうに誘致していくかという動線をつくっていく必要があると思うんですね。

そういった意味でちょっとお伺いしますけども、サンビーチおきみ時代には、その先に栈橋が設置されておりました。今は簡易栈橋を夏場に設置するとか、そういったものもあるんですけども、この栈橋、要は恒久的に利用できるような栈橋をもう一度設置することは考えられないかということですが、その点についてお伺いいたします。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 現在ある栈橋は、つり栈橋という位置づけでございます。こういう表現はどうかと思うんですが、少し簡易的な栈橋です。おっしゃっているような、例えば大きなクルーザーが来るとか、モーターボートが何隻か着けるような栈橋を設けるということになりましたら、恐らく億単位の費用がかかると思っております。そうすると、例えば半額国が出してくれたとしても1億なら5,000万、2億なら1億、そういった形の市の持ち出しがかかってまいります。そうすると、正直市民の皆様の同意がどこまで得られるかというのは、ちょっと私も自信がありません。

事業者のほうにもお話ししているんですけども、近くに是長港とか、畑漁港とか、特に畑漁港には立派な栈橋がありますので、少し送迎のバスの時間が延びると思うんですけども、そのあたりは御理解いただいて、今あるものを有効利用していただきたいと、そのように考えております。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） ちょっとそういうことということなんですけど、今、先ほど申し上げた、先ほどのひろしまサンドボックスの実証実験というのもあります。また、広島近郊や岩国空港からの海上ルートというのも1つ視野に入れてもいいと思うんですね。特に広島近郊には、プライベートでレジャーボートを所有する方々の客層もある

かと思えます。自家用車で丘回り、陸上で訪れるよりも船で来るほうが近い、また、釣りやマリンレジャーをしながら夕日のきれいな宿泊施設を利用するという、いわゆる客層もあるわけなんですよ。そういった意味で、また、宮島とは船で10分、15分の圏内であると思うんです。今は定期航路はないですけども、先ほどの海上タクシーのものが、将来的にビジネスとして成り立つのであれば、やっぱりそこにすぐ、宿泊施設のすぐ直近にやはり桟橋があるというのは非常に魅力的であると思えます。

そういった意味で、今まさに観光振興、観光ビジネスの創成期にある。宿泊施設がいよいよ来年の7月にもう新ホテルも建ちますし、一方で、今既存の商業施設もある。そういった意味では、今、先ほど新ホテルのところでいろいろ支援策、金額的、資金的なものを聞きましたけども、結局20年間かけて10億を超える支援をすると、財政的にですね。そういった意味では、一方で新たな客層というか、そういった海上から来る客層もターゲットに、宮島からの人たちもターゲットにという意味では、私は、仮に国が半分しか出さないとかいっても、一定程度のやっぱり投資というのは必要なのかなというふうに思いますので、ぜひ国や県といろいろ働きかけながら、実現に向けてこれからも検討をしていただきたいなというふうに思います。

それで、先ほど市長答弁のほうにありましたけども、観光客数の増加については、観光戦略チーム「一歩」が取り組むテレビなどでの情報発信。そして、体験プログラムの造成や体制づくりを整備されているということでございまして、その後、私が考えるには、宿泊施設と体験プログラムの実施者がいらっしゃいますが、やはり予約システムであるとか、いろんなもろもろの受け入れ態勢が必要であると思うんですけども、これは、宿泊施設の事業者が単独でやるよりも私は連携してやったほうがいいのかというふうに思うんですけども、この点について、市としてはどうお考えでございませうか。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） このたびのリモートで行う、えも博でも、1つUminosで行うプログラムがございませう。こういった形で、実際宿泊者が泊まって体験していただくと。そういった形をUminosでもそうですし、新ホテルでも考えてまいりたいと、そのように思っております。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

これから、次のことでまた質問になると思うんですけども、事業者同士のいわゆる宿泊施設の連携も、施設同士の連携というのもやっぱり視野に入れていただければなというふうに思います。

それでは次に、「岸根における開発可能性について」でございませう。

先ほど、市長答弁にありましたように、新型コロナの部分もありますし、一方で、昨年された岸根開発の調査というのは、私は有益的なものであるというふうに思っております。

すみません。ちょっと教えてもらいたいんですけども、昨年の7月以降、提案者から何らかの、これまで市に対して何かアクションがあったのか、もしくは市側から何かヒアリングはされたのか、この点だけ教えてください。

○議長（吉野伸康君） 奥田企画部長。

○企画部長（奥田修三君） 御質問のありました提案者の企業グループは、本市の持つポテンシャルに目を向けてくれた企業でございます。現在もその担当者とは連携を図って、保っております。

このたびの開発可能性調査の結果では、市の負担が6億円にも上り、この調査結果をもとに事業化することは困難であることは理解していただいております。

しかしながら、今後、国や県の財政支援、先ほど市長の答弁にもありましたとおり、そういったものがあればいつでもチャンスに乗られるというような態勢は持っておきたいと、このように考えております。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

今、市長答弁にありましたように、市の今の考え方としては、今後、民間企業、事業者から自主財源による事業提案があったら積極的にということでございます。

また、開発可能性調査の報告書というのは、市に所有権があると思います。これは本当に岸根の近々の、直近の可能性を調べたものでございますので、今後、コロナ後になるとは思うんですけども、ぜひとも将来、民間資本できれいな花が咲くことを願っております。

それでは、次に移らせてもらいます。

「地域振興施設整備について」でございます。

市長の御答弁では、いわゆる休憩機能であるとか、情報発信基地、地域連携機能を備える国土交通省に登録する道の駅ではないということはおわかりました。そして、地域の1次産品や特産品を販売する地域振興計画の整備ということでもあります。

12月8日に市の6次産業化・地産地消推進協議会地域振興施設準備部会が開催されたということですが、これは、平成29年度に呉農業協同組合であるとか漁業振興協議会、商工会、観光協会、女性連合会、食育専門委員会を初めとする6次産業化と地産地消に係る団体及び金融機関、県、市で構成されるその協議会の分科会という認識でよろしいでしょうか。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 発端は今おっしゃったように協議会なんですけれども、今回は実際にやる場所も絞って、規模も先ほど申しましたように、小さく産んで大きく育てるといっても含めてかなり絞って、それぞれの皆さんに実際役割分担も割り当てて、じゃあどこが何するかということも含めて、一歩踏み込んでやろうということで部会を設置しました。それで集まっていたのは、呉農業協同組合、そして江田島市漁業振興協議会、それから商工会、それから観光協会、そして江田島市、この5団体で分科会を開きました。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

それでは、次というか別の質問に移りますが、平成21年に建設業協会が主体となっ

て、海生交流都市開発協議会というものを設立しまして、国土交通省の補助事業で、江田島フィールドミュージアムづくりということで、大君地区、今、江田島オリーブファクトリーがあるあの近辺で、仮称江田島ふるさと市場を開設したことがあります。

これは、平成22年の3月20日にオープンし、その年の9月20日で、半年間にわたって4万2,100人の来場者があったというふうに報告があります。

販売品目は、地元の特産品、農産物、魚介類を主としており、まさにこれから目指そうとする地域振興施設整備の先駆けであるのかなというふうに私は思っております。

この期間の集客数や売上高、アンケートの結果等、全てのデータを当時の市に手渡して、早期実現を要望したということでございますけども、これは、市のほうには何かそのときのデータというのは持っていらっしゃるのでしょうか。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） ごめんなさい。私ちょっとその辺の引き継ぎを受けてないもので、今すぐにどこにあるかというのは、今はわかりません。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） 今のところは、今、主催者のほうが湯崎県知事に意見交換した中での文言でございますので、恐らくあると思うので、ぜひ確認をしてみてください。

それと、今、この施設ですけども、やはり注目される市民の関心事というのは、ではどこにその場所、立地場所ですよ、どこにできるんだろうと、そういうのが市民の最大の関心事であると思うんですが、この点はどうでしょうか。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 以前、市内4カ所でターゲットいうんですか、絞って、計画というか調査をしたんですけども、今回はある程度絞り込んで、1カ所絞り込んで考えてるんですけども、相手がある問題ですので、場所についてはお答えできません。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

それではまた、これから詳細を煮詰めていく中で、開示できる段階になって、また議会のほうにお示ししていただければなというふうに思います。

それで、もう1つちょっと気になるところがあります。これは、江田島市の特産品、1次産品ということなんですけども、今、御承知のとおり、江田島市内にはいろいろな産品を販売している団体がありますね。例えば、指定管理をしていますふれあいプラザさくらであるとか、あとは市の協働のまちづくり地域提案型活動支援補助金を受けてやっていたらっしゃる能美産直市場里の駅というのもありますし、あとは、ウエストバザールというのもあるでしょう。また、今、江田島の鷺部地区にも地域の方が1次産品の、これたしか海産物、カキとかも売っていたので、いろいろなもろもろを売って、地域の方々に喜ばれている施設だと思うんですけども、こういったところがあるんですよ。こういったところと競合しかねないのかな、どうなのかなというところもあって、そういった地域との新しくつくるものに対して、やはりいろいろ協力、もしくはいろいろ合

意というか、そういったものが必要になってくると思うんですけど、この点について、産業部のほうではどうお考えでしょうか。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 現時点での地域振興施設の構成員は、先ほど申しましたように、呉農協、それから漁業振興協議会、そして商工会、観光協会ということを考えておまして、それぞれのネットワークによって商品を集荷しようと、そのように考えております。現在ある施設につきましては、構成員が直接かかわっている施設はありませんので、それぞれが特色を持ってやってらっしゃいます。新たにもう1つの特色を持った施設ができますので、例えば、うちにはないものはあっち行ったらいいよとか、あっちにはないものこっちにありますから、こっち使ってくださいとか、そういったネットワーク、みんながそれぞれ特色を持って進められていければいいなど、そのように思っております。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。先ほどの、私が申し上げた平成22年の江田島ふるさと市場のときには、やっぱり地元とのちょっとなかなか不協和音というの、要はお客さんを奪われるとか、そういった不協和音もあったやに聞いております。このたび、やはりそういった新たな施設をつくるときに、やっぱり競合して客が減って、その、共存共栄ということが一番いいと思うんですけども、それをどういうふうにしていくかというのをしっかり検討していただければなというふうに思います。

それと、江田島市、漁獲高、広島県のカキ以外で50%を占めている。これは意外と知られていない、県内でも知られていないところだと思うんですね。また、江田島市民も江田島市でとれた魚を買うことができないというか、スーパー等へ行くとどうしても他県産や輸入ものが目立ちます。そういった意味で、このたびの地域振興施設の売りとしては、やはり鮮魚もすばらしい地域資源ということで、いかにブランド化するかを検討することが必要だと思うんですけども、このことについて部長、何か協議会の中でお話は出ていますかね。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 水産物のブランド化ということですかね。漁業振興協議会のほうからも、やはり地域振興施設を設置するに当たり、例えば、6次化ですよ。市に出したらなかなか値がつかえません。しかし、6次化するとまあまあのお金、値段がつくということで、この振興施設をつくることとあわせて6次化のほうも取り組んでまいりたいと、そのようなことを聞いております。私らもそれに対して支援していきたいと、そういうふうに思っております。

以上です。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

先ほど、今、部長がおっしゃったように、1次産品だけじゃなくて、やっぱり6次産業化というのが必要であって、特産品の開発の鍵になってくると思うんです。観光振興計画には、観光消費額を上げていくということもありまして、もちろん観光消費額とい

っても、やはり商品のいわゆる内製化ですよ、要は材料の市内調達率というのはやっぱりキーになると思うんですよ。そういった意味で、商品開発について、産業部としてはどのような支援をしていきたいというふうにお考えか教えてください。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 観光消費額を上げるための支援というんですかね、施策というんですかね、そういう質問だと思います。

観光消費額を上げるためには、6次産業化と地産地消を進めていくということがとても有効であると思っております。それで、先ほどおっしゃったようにブランド化ですか、そういったことも考えていくんですけれども。あと、「えたじま ものがたり博覧会」等でもそういったことを、有料でいろんな体験メニューを考えながら観光消費額を上げていくということを考えているんですけれども。

例えばなんですけれども、このたび長田製菓さんがイチゴ大福を作られたんですね。それで、沖美ベジタが作ったイチゴを大福にして、このたび夢ぷらざ、広島の本通りの夢ぷらざで販売されて、50個ぐらいだったんですがもう即売り切れたという話を聞きました。お話ししましたら、次はオリーブ大福も考えてるんですというようなこともおっしゃって、オリーブの塩漬けを大福にするととてもおいしいというようなことで、新ホテルもできますし、そういった新しいお土産物の開発ですとか、いろんなものをコラボしながら、そういう新しい特産品をつくっていく、お土産をつくっていく、そういったこともとても有効じゃないかと思っております。

そういった意味で、何ができるかわかりませんが、お互いに知恵を絞りながらそういったことを考えてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。今のその話はすごく素晴らしいと思います。やはり商品をつくるにしても、中に江田島市の原材料が入ることによって、やっぱりそこにつくっておられる方々にも経済効果というか、発生しますし、ぜひそういった取り組みをしたいという、チャレンジをする、またそういった2次産業者があれば、産業部のほうもいろいろ情報提供であるとか、ネットワークをつくる手助けをしていただければなというふうに思います。

それでは、次に移ります。

「観光協会の在り方と支援策について」でございます。

今、市役所の2階に観光協会がありますけども、どういった経緯で市役所に入ったのか。また、事務局体制はどのようになっているのか、このことについて教えてください。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 観光協会の事務所につきましては、江田島市の観光戦略チーム「一步」の一員として観光振興のさらなる、うちの交流観光課との連携強化を行うために、今年の7月から市役所の2階に来ていただいております。

観光協会の事務局体制は、ふるさと交流館では従来どおりの観光案内とお土産物の販売を行っておりまして、市役所の今2階には、事務作業を行うそういったような体制と

なっております。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

先ほど、市長答弁の中で、今観光協会は任意団体であるということでございます。江田島市の財政支援団体の監査、これ平成28年度でございますが、こちら、28年度ですかね、そのときに、観光協会の会員数が203名というふうになっております。これは、法人、個人という会員数に分けて今どういう状況なのか教えていただければなというふうに思います。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） すみません。今ちょっとその数字は持ち合わせておりませんので、ごめんなさい。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。じゃあまた後ほど教えてください。

先ほどの市長答弁では、市としては、観光協会の一般社団法人化に向けて支援をしているということでございます。この構想がいつスタートして、また、設立の時期の目標が今いつなのか、このことについて教えていただければと思います。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 現在進めております観光協会の一般社団法人化につきましては、平成30年の6月5日に第2回の観光協会の理事会がありまして、そこで提案がされました。実際いつまでかということと言いますと、今現在は、令和3年の4月1日に一般社団法人化することを目指して定款等の整備をしております。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

令和3年4月1日ということは、もう間もなく定款を整備されて、公証人役場で認定を受けて手続を踏むという、最終段階に来ているということでございますね。わかりました。

それで、将来的に、観光振興・交流促進のための稼ぐ力を引き出す経営力を磨き、江田島市の強みを生かした企画・営業・プロモーションをすることができるよう一般社団法人化を目指すということでございますが、いわゆる地域商社としての機能を備えることを期待しているのか、そのことについて教えてください。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 議員がおっしゃる地域商社というのはどのぐらいのものかちょっと私もよくわからないんですけども、とりあえず稼げるように、自立をしていただけるような方向性を模索しております。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

今現在の江田島市観光協会のいわゆる収入源というのは、市の補助金、そしてふるさと交流館の指定管理料ですね。それとあと物販の収入であると思うんですけども、なかなか非常に厳しい状況ではあると思うんですけども、ただ必要な団体でもあるということとは理解しております。

そのために、市は、人、もの、金の支援が必要であると私考えておるんですけども、市は今後どのように、一般社団法人化した後にもどのような支援を、人、もの、金についてどのようにお考えなのか教えてください。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 人、もの、金。金の部分では、指定管理料を減額していつて、自立していただくような方向性を考えております。

ものという部分でいえば、今のふるさと交流館では場所がわかりにくいとかいったことがあると思うんですけども、これは地域振興施設ができれば、そこに入っただくなりすればですね、わかりやすく利用されやすいことになるんじゃないかと思っております。

あと、一番大事な人なんですけれども、これについては、永遠のテーマというんですかね、よそからお金をかけて呼べばすばらしい人が来るかもわからないんですけども、私はやっぱり江田島市の中で、やっぱり「一歩」を通じて皆さんと協議を進めていく上で、人材を磨き上げていくんですかね、絶対すばらしい人材がおると思いますので、そういう方向で考えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

ちょっと私も今、先ほどは、指定管理料を減額して自立してほしいというお話もあったんですが、かなり非常にハードルが高いのかないうところもあって、逆にどういった支援をして、金の部分ですけどね、考えてみるにですね、例えば、来年7月にはオープンするであろう新ホテル、温泉施設ありますよね。入湯税というのがあります。これは、地方税法で入湯客1人1日150円が標準ということでございますが、一方で、現在、各地調べてみましたら、釧路では2015年に入湯税のかさ上げをしてるんですよ。2018年には別府でも入湯税のかさ上げ条例を議会が承認しております。そういった意味では、江田島市においても入湯税、もちろんこれ目的税でございますので、使用は観光振興の費用には見立てることはできるということでございますが、入湯税のかさ上げというのも検討することも必要なのかなと思うんですけども、どうでしょうかね。

○議長（吉野伸康君） 山井市民生活部長。

○市民生活部長（山井法男君） 観光振興の財源として入湯税を上げてはどうかということですけども、これまでこの金額でやってきたという経緯もありますし、新ホテルができてすぐ、直ちに上げるということは、現在考えておりませんが、今後、これも1つの観光振興のための財源ですから、どういう形がいいのかというのは、今の金額に縛られることなく考えていきたいと思っております。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。

昨日の酒永議員の質問でもありましたけど、これから江田島市非常に厳しい状況もあるので、やはり何がしか、出るものは吟味していかなくちゃいけないし、一方で、財源をどう確保するかというところも1つのポイントになると思うんです。江田島市は、これから観光産業を広げていくことによって仕事をつくっていく、そして雇用をふやしていく、また、経済効果を広げていくというところに今展開してるんで、やはり何らかのエンジンというんですけども、そのエンジンを回すのは、やはり僕は観光協会だと思ってるんですね。そこをいかに自立させるか、もしくは、いかに支援してそのエンジンを回していただくか、こういったところも整備は必要になるのかなということで、今入湯税のことも財源の1つとして言わせてもらいました。

今申し上げたように、私は、観光協会のあり方としては、観光振興を推進するエンジンであってほしいと思っております。もちろん、市や商工会、そして宿泊、飲食、お土産物、観光施設、体験事業者などのいわゆる観光関連団体事業者との強力な連携が必要であると思います。将来的には、このような各種団体と地域DMOを組織して、江田島市内の観光をマネジメントとマーケティングを行う必要があると考えておりますが、市はどういうふうにお考えになっているのか、このことについて教えていただきたいと思っております。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 今議員がおっしゃったDMOにつきましては、私まだまだ勉強不足で意味がよくわかっておりませんが、先ほどおっしゃるように、観光を回していくエンジンを観光協会でありますとか、このたび「一歩」で皆さん御協力いただきながら盛り上げをつくっておりますので、そちらのほうをしっかりと頑張っていく、そういったDMOみたいなものにつながっていけばなと、そういうふうには思っております。

それから、先ほど御質問ありました観光協会の会員数でございます。個人が56と、それから団体93で149ということでございます。よろしく願いいたします。

○議長（吉野伸康君） 胡子議員。

○13番（胡子雅信君） わかりました。観光協会の会員数が平成28年のときよりかはちょっと減っているということでもわかりました。

あとは、私ども、私もそういった意味では、例えば観光協会というところを、これから江田島市をどういうふうに盛り上げていくかというふうなキーになるところであり、できれば、江田島市民全てが観光協会の会員になるというのが一番面白いのかなとも思っています。

今後、これから来年7月のホテルのオープンによって、また宿泊客が来ることによって、それをいろいろな体験メニューであるとか、いろんなつなぎ合わせることによって、総観光客数もふえるし、また、経済効果もあるというふうに私は期待しております。

これから私ども議会としても支援していきたいし、行政、市民、議会が同じベクトルに照準を合わせて、オール江田島で盛り上げていけることを私も願って、しっかりと頑張りますので、よろしく願いします。

これで質問を終わります。

○議長（吉野伸康君） 以上で、13番 胡子議員の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。11時5分まで休憩いたします。

（休憩 10時52分）

（再開 11時05分）

○議長（吉野伸康君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

8番 上本一男議員。

○8番（上本一男君） 8番議員、上本一男です。

通告に従い、1問質問させていただきます。

江田島の未来のために、今こそ黒神島の活用方法を質問させていただきます。

まずもって、市長、2期目おめでとうございます。対抗馬もよう出ずに無投票で2期目、本当におめでとうございます。

これは、やはり過去4年間を振り返ってみますに、やはり市長の市民第一、幸せを少しでもふやし、悲しみを減らす取り組みが市民に認めていただき、その結果が市長選挙における対抗馬不出馬ということになり、無投票当選に至った結果であろうと思います。本当におめでとうございます。

さて、所信表明で、熱意・誠意・創意をもって「『ワクワクできる島』えたじま」を導くために、市長は6つの取り組みを挙げております。私はその中で、5番目の取り組みが江田島市の浮沈をかける一番大きな要素であると考えます。遊休土地・施設の処分・活用でございます。

ここ最近の未利用財産の活用により江田島市は元気を取り戻しつつあります。この流れを一気に加速するためには、大黒神島の活用方法を考えることが重要でなかろうかと考えます。

そこでお聞きします。江田島市にとって一番大きな未利用財産、黒神島をどのように活用していくのか、お考えをお教えいただければと思います。よろしく願いいたします。

○議長（吉野伸康君） 答弁を許します。

明岳市長。

○市長（明岳周作君） 上本議員から、大黒神島の活用について御質問をいただきました。お答えをさせていただきます。

御承知のとおり、本市沖美町の南西部に位置する大黒神島は、面積7.3平方キロメートルの無人島でございます。これまでの経緯を振り返りますと、平成13年度に旧沖美町が策定した沖美町第3次長期総合計画では、大黒神島総合整備構想と称する海洋体験施設や公園の整備構想が掲げられておりました。

その後、平成16年度に本市が策定した新市建設計画では、大黒神島を舞台とした自然を生かした体験・学習活動や海洋レクリエーションの推進について検討することが掲げられております。

さらには、平成26年度に策定の江田島市第2次総合計画において、大黒神島や沖野島、沖美町の海岸線などを含むエリアを海と島の観光・交流ゾーンと位置づけ、本市の

魅力づくりや交流人口の拡大に活用する区域としております。

このように、大黒神島は、従前よりその自然を背景とした活用を検討してきたところであり、その大きさや手つかずの自然環境など、多大な魅力と可能性を秘めた島であると認識いたしております。

しかしながら、島の海岸線の多くは、境界線が不明確な民有地が占めておりまして、開発に必要な利害関係を確定するには、相当の障害となることが予想されております。

また、本市の財政状況から、単独の開発計画により、財源を捻出することは大変厳しい状況にございます。

しかしながら、大黒神島、議員さんがおっしゃられるように大切な宝であろうかと思っております。先ほど、岸根開発につきましても御答弁させていただきましたけれども、民間の活力によって、大黒神島の持つ資源や可能性を生かせる開発の申し出がございましたら、その可能性については積極的に検討してまいります。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 上本議員。

○8番（上本一男君） 再質問させていただきます。

私は、この問題を出したのは、第1期、市長の施策の中で、江田島市の未利用財産、市有財産、これは要らんものは売却しようというようなことで、まず第1が切串中学校ですよね。あれも一応買ってくれる人がおったと。それから、一番はロッジ問題なんですけど、宿泊施設をどうにか引っ張ることができた。それと、今度は、まだどうなってるかはっきりちょっとようわからんですが、秋月も一応は民間の力を入れて、あそこへ施設をこしらえると。それから、能美へ行くと、今度は能美市民センターへバレット社が、IT企業が来てくれるというぐあいにはなっとなってますよね。岸根問題はちょっと今、宙に浮いたような感じになってますけど、そういうことをすることによって雇用が生まれると。一番は、やはり人口が減っていくとどうやっても市を維持するのはなかなか難しいだろうと思うんですよね。呉市、江田島市にならさんがため、江田島が単独でも生きるためにも、どうしても今ある財産を利用して、企業に、また、県・国を動かすような取り組みしなければ、僕は生き残れんのではないかないう危機感もあってこの問題を出しました。

これは、以前、沖美町時代からいろいろ取り組みされとったと思うんですが、この大黒神島というのは、能美、江田島から離れてあるというのがね僕は魅力じゃないかな。ひとつ産業が起きるんじゃないかないうような感じがします。それどういうことかという、今、黒神、無人島に行くいうたら船を使うしかないんですよね、今のところは。なら、船を使ういうと、やはり僕は漁業関係になってくると思うんです。これをどうにか向こうへ人間を運ぶと、渡すというんが、産業が僕は起きるんじゃないかないうような感じがしとんです。それは、80%、90%が江田島市の市有財産になっとなっちゃうと思うんですが、大黒神島の今の所有の分布はどういうぐあいになっとなってますか。どこが個人になって、大体どの辺が江田島市のものになっとなってますか。ちょっとお聞きします。

○議長（吉野伸康君） 奥田企画部長。

○企画部長（奥田修三君） 御質問のあったとおり、大黒神島、ほとんどの土地が江田島市、官有地というふうになっておりますが、沿岸部分は民有地が多く占めております。先ほど市長の答弁にもありましたとおり、境界が不明瞭な土地が非常に多く、面積も非常に確定されていないというようなところでございますので、詳細な数値については把握はしておりません。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 上本議員。

○8番（上本一男君） あれは、僕は表側のほうに民有地が多くて、裏側は大体市の土地じゃというぐあいに把握しとんですが、そうでよろしいんですか。

○議長（吉野伸康君） 奥田企画部長。

○企画部長（奥田修三君） 議員お見込みのとおりでございます。

以上です。

○議長（吉野伸康君） 上本議員。

○8番（上本一男君） それと、ちょっとようわからんのですが、海岸線よね。例えば表側は民有地がある、あの海岸はどうなるんですかね。島の周り、僕の頭の中では、一応堤防があれば、その沖は漁協のになるんかどうかなんか知らんのですが、海岸は僕は個人所有じゃなかろう思うんですが、それはどういうぐあいになっとんかいね。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） 大黒神島につきましては、一部護岸整備した部分があると思います。これにつきましては、恐らく農地海岸で整備されているんじゃないかなと思いますね。そうすると、海岸については農地海岸ということで、県のほうの管理になります。砂浜、海浜につきましては、これは国有地になるんですかね、そのように解釈しております。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 上本議員。

○8番（上本一男君） ということは、表は堤防やっとするその海岸は、要は誰が使うてもええいううちに、そういうのになると思うんですよね。というところは、深江のほうからずっと、表側、こっちから見える範囲ですよ、あれは海岸部分は有効利用いうのはできる思うんですよね。

僕は、やはり黒神いうもの自体を、例えば昔、沖美町時代、NLPですかいね、そういうようなことから、それから防衛を引っ張ってくるとかいうようなことがあったと思うんですが、それいうんはね、やはり民地があるけんどうこういうような問題じゃなかったらと思うんよね。やはりあれ全体をどうにか国のほうへ働きかけて、どうにか引っ張ってこうと、それは民地があるけんこれはできんとかなんとかいうような問題じゃのうて、全体で盛り上げようというようになってたと思うんです。だからそういうのをね、もう1回ブラッシュアップして、あの島がどういうようになつとるかって、こっちから発信するというぐあいに持っていくべきだろうと思うんです。いううちに裏側は水深20メートル、30メートルいうて、天然の良港とかなんとか、確かに裏は急ですし、ある程度整備すれば、僕は天然の良港になると思うんですよね。そういうとこをね、全体で、

あの島がどういう島であるかいうことをもうちょっとアピールして発信すべきじゃろうと思う。

僕は、ちょっと話があれなんですけど、ここで黒神島の山へ登ったことある人は多分おらんじゃろう思うんですよね。無人島の山。今、僕のところへは結構来られるじゃないですか、山登り。その辺の今、島へ登山客がどれぐらい来られるかいうのは把握されておりますか。

○議長（吉野伸康君） 泊野産業部長。

○産業部長（泊野秀三君） キャンプ目的で島に船で渡られて泊まったりとか、あそこ別荘も幾つかあったりですとか、そういったことは承知しているんですけども、実際にじゃあどのくらいの数が来てらっしゃるかというのは、ごめんなさい、承知しておりません。

○議長（吉野伸康君） 上本議員。

○8番（上本一男君） いやいううちに、今流れ的には結構山登りもこっち随分おる思うんですよね。あれをね、黒神島なんか登ったことある人いうのはよいよおらんじゃろう思うんですよね。見ても急峻だしね、本当おらん思うんです。僕ら年明けに、ちょっとグループで1回行ってみようやいうような、今あれにはしとんですがね、無人島へ、例えばこっちから船を出していく1つのルートをしらえりゃね、これまたちょっと変わってくる思うんですよね。ありきたりの山じゃなくて、ちょっと登ったことない急峻な山をやってみると。そういうのもありじゃろう思うんです。

今、うちの島であるんですが、あの山が460メートルあるみたいなんですよね。いうことは、野登呂山の次に高い山なんです。それから、あれは山登りの人にとっちゃ面白い山じゃろう思うんです。そういう意味で、黒神いうのをちょっとブラッシュアップしてやってもらえばと思います。ちょっとその辺でどういうぐあいに執行部考えられるか。

○議長（吉野伸康君） 奥田企画部長。

○企画部長（奥田修三君） 議員御質問のありました大黒神島、確かにロケとかやらせてもらえんかとかいうような問い合わせもあったりして、無人島である魅力というのは十分あると思います。そういったことから、今、御質問のあった内容を、しっかり内容を検討します。その中で何ができるかということもあるんですけど、活用できる本当に大切な財産だと思いますので、この大黒神島に限らず、江田島市が持つ全ての財産の魅力をしっかり洗い出して、江田島市のよさをPRしていきたい、このように考えております。

以上でございます。

○議長（吉野伸康君） 上本議員。

○8番（上本一男君） ありがとうございます。きょう私が言いたかったんは、今市長はそういうような流れをつくってくれとると。それから、いよいよ僕は黒神いうのは市有財産であるし、それは1番大きい市有財産、これをやはりどうにか売りに出して、売りに出していううちに貸し出して、国・県へ働きかけていただきたいという思いで質問させていただきました。すみません。きょうはそういうことで、ひとつまたよろしく

お願いします。

終わります。

○議長（吉野伸康君） 以上で、8番 上本議員の一般質問を終わります。

日程第2 発議第9号

○議長（吉野伸康君） 日程第2、発議第9号 全ての医療機関への緊急財政措置を求める意見書（案）の提出についてを議題といたします。

直ちに提出者から趣旨説明を求めます。

酒永光志議員。

○7番（酒永光志君） 7番議員の酒永光志でございます。発議をいたしますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

発議第9号。

令和2年12月15日。

江田島市議会議長 吉野伸康様。

提出者 江田島市議会議員 酒永光志。

賛成者 江田島市議会議員 胡子雅信。

賛成者 江田島市議会議員 岡野教正。

賛成者 江田島市議会議員 熊倉正造。

賛成者 江田島市議会議員 山本秀男。

賛成者 江田島市議会議員 上本一男。

全ての医療機関への緊急財政措置を求める意見書（案）の提出について。

上記の議案を別紙のとおり江田島市議会会議規則第14条第1項の規定により提出いたします。

意見書の提出先は、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣であります。

内容については、別紙のとおりでございます。

以上、よろしくお願いをいたします。

○議長（吉野伸康君） 以上で、趣旨説明を終わります。

本案については、質疑・討論はないものと思われまますので、これより直ちに採決を行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

起立多数です。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

この際、暫時休憩いたします。

（休憩 11時26分）

（再開 11時27分）

○議長（吉野伸康君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第3 発議第10号

○議長（吉野伸康君） 日程第3、発議第10号 子供の医療費助成制度の拡充を求める意見書（案）の提出についてを議題といたします。

直ちに提出者から趣旨説明を求めます。

酒永光志議員。

○7番（酒永光志君） まず、この発議をする前に、先ほどの発議第9号において、日付を令和2年12月15日と申し上げました。誠に申し訳ありません。日付につきましては、令和2年12月24日に訂正をさせていただきます。

それでは、改めて発議をいたします。子供の医療費に関する発議でございます。

発議第10号。

令和2年12月24日。

江田島市議会議長 吉野伸康様。

提出者 江田島市議会議員 酒永光志。

賛成者 江田島市議会議員 胡子雅信。

賛成者 江田島市議会議員 岡野数正。

賛成者 江田島市議会議員 熊倉正造。

賛成者 江田島市議会議員 山本秀男。

賛成者 江田島市議会議員 上本一男。

子供の医療費助成制度の拡充を求める意見書（案）の提出について。

上記の議案を、別紙のとおり江田島市議会会議規則第14条第1項の規定により提出いたします。

意見書の提出先は、広島県知事でございます。

内容については、別紙のとおりでございます。

よろしく願いいたします。

○議長（吉野伸康君） 以上で、趣旨説明を終わります。

本案については、質疑・討論はないものと思われまますので、これより直ちに採決を行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

起立多数です。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

閉 会

○議長（吉野伸康君） 以上をもって、本定例会に付議された案件の審議は全て終了いたしました。

これで、令和2年第8回江田島市議会定例会を閉会いたします。

（閉会 11時31分）